

みやまの風

令和6年8月27日(水)発行 園長 津田 将真



ENCHO

両方の園にアクセスしていただき閲覧数のアップ、情報の共有にご協力ください。



寄 松田

写真のカラー版はHPで…幼稚園HPのQRコードです↑

夢の つづき



「そうか、今日で終わりなんだ…。」

長〜く続いた川原遊びの最終日、いよいよ終了という瞬間に、一人の子の目から涙がこぼれました。おたまじゃくし探しから始まった川原遊び、おままごとや露天風呂づくり、そして壮大なペットボトルの筏づくりと子どもたちの意欲は継続し、多くの失敗を繰り返しながらも豊かな経験を積み重ね、一人ひとりの成長につながりました。

特に筏づくりでは、試行錯誤と失敗の連続でした。なかなか体がしっかりと浮くものできないこと、浮力をつけようとたくさんつなげたペットボトルがとれてしまうこと、つけ方によって浮き方も変わってくること、せっかく流れ始めても川底の石につっかかり止まってしまうこと…。子どもたちは数えきれないほどの課題、問題と向き合い、そして乗り越えてきました。

そして得た、大きな感動と喜び。

そんな活動を教師も子どもたちと共にしてきただけに、涙の意味もはっきりわかりました。そしていっしょに夢のつづきをみようと思います。

「夏休みのあすかりで、全員がそろったときに、川原遊びに行く？」

「行く！！」

その後園長交渉の後、夏休みの戸川公園川原遊びが決定したのであります。

夏休み中の戸川公園に夢のつづきがありました。

子どもたちは目を輝かせながら、遊具で遊び、持参した手づくりの筏で悠々と川を横切っています。どの顔も誇らしげで、長く続けてきた活動が力になっていることをはっきりと感じました。

あまりに子どもたちが生き生きしていたからでしょうか、公園の職員の方が近づいてきて、声をかけられました。

「これは手作りの筏ですが？すごいですね。」

「子どもたちががんばって作ったのです。」

「写真を撮って、いいですか？」

「どうぞ、どうぞ…」

その方はしきりに感心されて、しばらくは笑顔いっぱい子どもたちの活動を見守ってくださっていました。

一日めいっぱい遊んで、子どもたちが笑顔いっぱい。そして大人はへとへとになりながらも、子どもたちと感動の交流を行うことができました。

運転手さん、警備員さんも含め、寄幼稚園には子どもたちと共に「夢のつづき」を見ようとしてくれる素敵な大人がたくさんいます。

